

橋詰先生に聞く 読み書き相談 Q&A

質問 1 拡大読書器を活かした「読みの指導」について

1 「読む楽しさ」から始めるスピードアップ

【質問】

小学部2年、緑内障により見え方が大きく制限されている児童についてのご相談です。拡大読書器の扱いには慣れ、1分間に60文字読めるようになってきましたが、今後の学力テストなどを考えると、もう少しスピードを上げさせたいと考えています。自宅での読書を嫌がるため拡大図書を勧めたいと思っており、より速く読むために効果的なトレーニングや、指導のコツを教えてください。

【橋詰先生】

現在使われている拡大教科書、拡大読書器の利用はとても大切だと思います。それ以外には、もし利用していないのであれば、電子図書の利用を進めてはどうでしょうか。教科書の電子版は無料で手に入りますし、一般図書も、図書館が電子化を進めて貸出をしている図書館も出てきているようです。電子図書は、自由に文字の大きさが調整できますし、音声化も可能なので、いろいろ使い道があるように思います。また、この頃はタブレット・パソコンが一人に1台あたる時代なので、これを有効に使うと、カメラ機能だけでもいろいろなものを見やすくしていくことができると思います。

読むことを嫌がるのは、視力からくる文字の読みづらさや読むことになれていないとともに、読むことの楽しさを経験していないことも大きいかと思います。読みスピードを上げる方法としては、早く読むことを優先したトレーニングよりも、楽しく読むことを優先してのトレーニングが現時点では、良いのではないかと思います。例えば、「文字で行うしりとり遊び」「絵本の交代読み」「文字を読んで答えるなぞなぞ」「謎の指令を読みながら進む校内宝探し」などなどです。好きなアニメやゲームなどがあればそのサイトを読むのもよいトレーニングになるのではないのでしょうか。

もし、本人が嫌がらないであれば、速読のトレーニングとして札幌視覚支援学校のHPにある教材「もじもじスラッシュ」なども良いと思います。プレッシャーにならないければ、タイムを計って、日々の成長をフィードバックするのも励みになると思います。

2 教科学習における拡大読書器活用のポイント

【質問】

今後、算数の定規の目盛りや理科のおしべ・めしべ、図工の彫刻刀などで拡大読書器を使用する場面が増えると思います。対象物が見やすい色のコントラストを考えて提示したいと考えており、つ

まずきやすい分野でもあるため授業配分も工夫したいです。拡大読書器を使ってこれらを提示する際に注意すべき点があれば教えてください。

【橋詰先生】

理科の観察では、電子機器やレンズでの拡大は大切だと思います。観察する際のバックに黒や白の画用紙を置くだけで見やすくなることもあります。定規に関しては、弱視用定規の他に、目盛りが階段状になっている市販の定規（コクヨ CL-RC30）が使いやすいと思います。